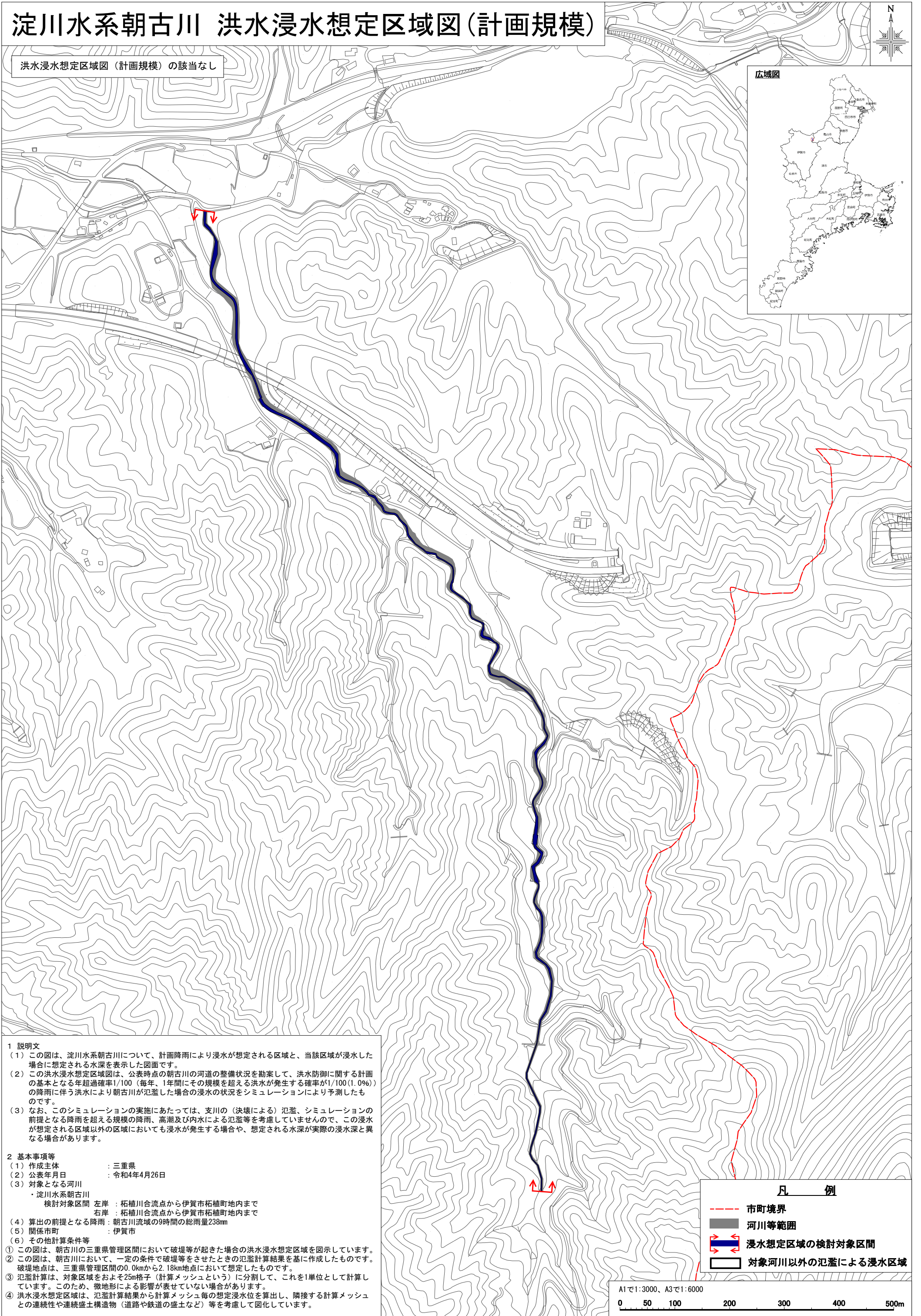


淀川水系朝古川 洪水浸水想定区域図(計画規模)

洪水浸水想定区域図(計画規模)の該当なし



- 1 説明文
- (1) この図は、淀川水系朝古川について、計画降雨により浸水が想定される区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
 - (2) この洪水浸水想定区域図は、公表時点の朝古川の河道の整備状況を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1.0%)の降雨に伴う洪水により朝古川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
 - (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水が想定される区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- 2 基本事項等
- (1) 作成主体 : 三重県
 - (2) 公表年月日 : 令和4年4月26日
 - (3) 対象となる河川
・ 淀川水系朝古川
検討対象区間 左岸 : 柘植川合流点から伊賀市柘植町地内まで
右岸 : 柘植川合流点から伊賀市柘植町地内まで
 - (4) 算出の前提となる降雨 : 朝古川流域の9時間の総雨量238mm
 - (5) 関係市町 : 伊賀市
 - (6) その他計算条件等
- ① この図は、朝古川の三重県管理区間において破堤等が起きた場合の洪水浸水想定区域を図示しています。
 - ② この図は、朝古川において、一定の条件で破堤等をさせたときの氾濫計算結果を基に作成したものです。破堤地点は、三重県管理区間の0.0kmから2.18km地点において想定したものです。
 - ③ 氾濫計算は、対象区域をおよそ25m格子(計算メッシュという)に分割して、これを1単位として計算しています。このため、微地形による影響が表せていない場合があります。
 - ④ 洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。

- 凡 例
- 市町境界
 - 河川等範囲
 - ⇄ 浸水想定区域の検討対象区間
 - 対象河川以外の氾濫による浸水区域

A1で1:3000、A3で1:6000
0 50 100 200 300 400 500m